

第33回 技術士全国大会報告

第33回 技術士全国大会（創立55周年記念大会）が2006年9月6日（水）東京都新宿 京王プラザホテルと工学院大学を会場に開催されました。当 防災特別委員会が主幹した第4分科会の様子を報告します。

【第4分科会概要】工学院大学 アーバンテックホール 9:30～12:30
テーマ「首都直下地震を迎え撃つ 技術士の役割」



基調講演

首都大学東京

都市環境科学研究科

都市システム科学専攻

教授・工学博士 中林一樹

「首都直下の地震とその災害的意味

内閣府及び東京都の被害想定から」

パネル討論

パネリスト

「建築物から都市基盤まで - 安全と減災」 中嶋 幸夫 （建設）

「簡易チェックリストによる地域危険度判定」

熊井 文孝 （建設・総合技術監理）

「災害時の情報、安否確認について」

浅岡 不二雄（建設）

「首都直下地震の影響と課題」

松井 義孝 （建設）

コーディネータ

廣瀬 由紀 （情報工学）

参加人数147名



中林先生の講演では、まず過去に発生した災害の解説があり、首都直下地震はM7クラスの規模のものが30年以内に70%の確率で発生するという話があった。さらに内閣府

中央防災会議と東京都で作成されたマクロ的な被害想定についての解説があった。被害には量的被害と質的被害があり、首都直下地震は「スーパー都市災害」である。これらの被害想定を見ると、従来の災害被害からは発想の転換が不可避であるということである。300万人とも予想される避難者へのサービスレベルを上げるのは困難であるので、避難者の自立が必要である。そして、公共の手が間に合わない場合に地域の力が重要となる。さらに事前のとりくみとして地震に強いまちづくりをしていくことが有効となる。そして日頃から正しい知識を身につけるための努力をする。これらのとりくみに向けて、個人としての技術士、社会の一員としての技術士ができることがあるというお話であった。

基調講演を受けて、パネル討論に移った。4人のパネリストが、防災特別委員会活動、各地方支部活動、減災技術推進ワーキンググループ活動を通じての具体的な課題と解決方法の提案について話題提供を行った。その後中林先生を交え、会場との討議を行い、まとめとして次のような大会宣言を発表した。

第4分科会大会宣言

- ・切迫する危険を認識し、連携して減災活動を推進します。
- ・被害軽減のため、地域防災力を高めます。

そのためには、

- ・全国的な防災ネットワークの組織化をさらに進めます。
- ・生活者の減災自助活動への支援・協力を通じ、地域防災力の向上に貢献します。

防災技術の普及に努めます。

防災教育のために積極的に取り組みます。

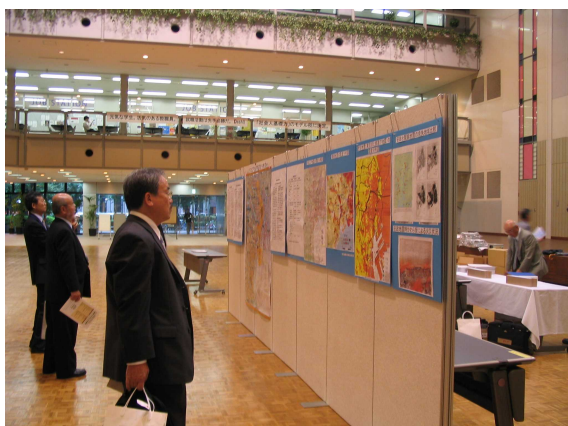
- ・災害に強い都市づくりに貢献するための活動を継続します。

【地震防災展示コーナー】

工学院大学 1F ホール(アトリウム)

9月5日(火)~9月6日(水)

- ・ 安政江戸地震の精密震度分布図
- ・ 過去の地震と将来の地震震度分布の比較図
- ・ 被害状況の写真、図(安政江戸地震、関東地震)
- ・ 免震ビル、非免震ビルの震度別の揺れ状況が比較できる模型
- ・ 防災特別委員会活動状況紹介展示



以上(文責 廣瀬委員)